

海域の概要

本湾は、紀伊半島南西部の熊野市に存在する湾で、湾奥には美しい砂浜の新鹿海水浴場があります。本海水浴場は、環境省の日本の水浴場 88 選にも選ばれています。



Specification

諸元

湾口幅：2 2 6 km

面積：5.43 km²

湾内最大水深：4 7 m

湾口最大水深：4 7 m

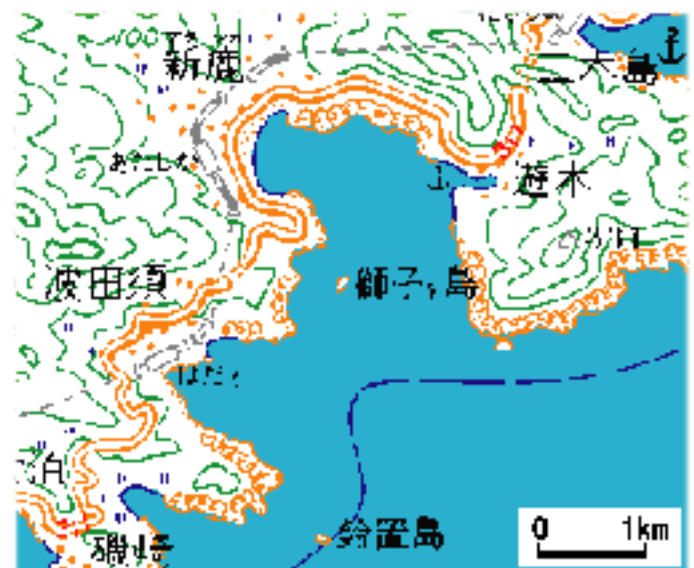
閉鎖度指標：1 0 3

備考：なし

Location

範囲または位置

三重県熊野市箕越崎と同市カイトロー鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



環境

新鹿湾は、変化に富んだリアス式海岸に位置する湾で、沖合に黒潮が流れ、温暖な気候となっています。日本でも有数の多雨地域であり、小湾でありながら湊川、里川など3川が湾奥へ注いでいます。

水質調査結果は三重県下でも極めて良好で、適・水質A Aとなっています。水質調査結果は良好ですが、家庭雑排水の問題を抱えており、下水処理が今後の課題となっています。

平成 13 年度水質調査結果

項目	ふん便性大腸菌 (個 / 100m l)	COD (mg/l)	pH	透明度 (m)	油膜の有 無	判定
計測値	<2	1.6	8.1 ~ 8.2	1以上	無	「適」 A A

自然

新鹿湾は、紀伊半島南部にあり、吉野熊野国立公園の中に位置しています。この湾の南にある国指定名勝天然記念物である「鬼ヶ城」までは北の伊勢志摩からリアス式海岸が続き、南には砂礫海岸として日本一長いと云われる七里御浜が 20 km 続きます。新鹿湾を境に、見事なコントラストを見せています。

新鹿湾には里川と湊川という2本の清流が流れ込んでおり、上流の花崗斑岩を削り取り湾岸に石英・長石からなる白い砂浜を形成しています。これが新鹿海水浴場で、「日本の水浴場 88 選」に選ばれています。

また、河口部分にはウナギ、ボラ、フグ、アユ、ハゼ、ハヤ、ヤマトテナガエビなどの海と川の魚を同時にみることができます。



新鹿海水浴場

文化歴史

高さ 150m にも及ぶ柱状節理がみられる楯ヶ崎は、日本書記に登場する神武天皇東征の際の上陸地とされています。また、11月3日には海で遭難した神武天皇の兄弟を助けに行った漁民の姿を再現した、古式豊かな「二木島船漕ぎ祭り」が行われています。

新鹿の沖には南海トラフがあり、50~100年に一度の割合でM8クラスの地震が生じ、大津波が集落を襲った歴史があります。



楯ヶ崎

産業

熊野での農業は稲作が主体で、春トマト、キュウリ、レタスのほか、早稲温州などの柑橘類が栽培されています。遊本・磯崎・甫母・新鹿の漁港を中心とした漁業は、サンマ漁などの沿岸漁業の他、二木島ではタイの養殖も行われ、温暖多雨の気候を利用した林業では、杉・檜の木材が生産されています。